

古屋大会にいたる鮮明な私物化労働運動

日刊 労働千葉

80.8.29
No. 520

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八・九(公衆)三三三・二七二〇七

路線的破産をきたした 労働「本部」反動分子を一掃し 労働大改革をかちとろう



第三六回名古屋大会において労働「本部」反動分子は、路線的破産をのりきるものと、て労働千葉破壊のためのみ、日共との野合の道を選択し、反合闘争を放棄し「大胆な妥協」路線にもとづく企業防衛主義へとますます純化している。そのことは、第三六回全国大会がなによりも実証したといえる。われわれは、かかる裏切りと屈服、合理化の尖兵と化した「本部」反動分子を一掃し、八〇年代労働運動の戦闘的再生、労働大改革をかちとるべく、さらに確信を深め奮闘しよう。



日共との野合は何を意味するのか

「三里塚特別決議」の
マヤカシとペテン性

名古屋全国大会における「本部」反動分子の反動的純化の第一は、なによりも「右翼再編反対」と称して、日共との野合への道を開いたことである。これはいかえれば、鈴木反動内閣の矢つぎ早やの軍事大国化・侵略諸反動攻撃が激化するなかで、「本部」反動分子が侵略の尖兵へと化したといえよう。日共は、こんにち「愛国の党」へと転落し左翼としての一カケラもない。この日共「愛国の党」と野合を進めんとする「本部」反動分子こそ侵略の尖兵になり下ったことを自認したものである。

さらに全国大会では、裏切り分子・土屋粹が「特別代議員」としてハレンチにも「ジェット燃料貨車輸送の延長計画に反対する決議」を提案したという。これは、前述した「本部」反動分子の路線的破産をインペイし、三里塚敵対・労働千葉破壊を策動した新たな攻撃であり、土屋粹はその尖兵の役割をかってたのだ。

さらに「本部」反動分子は、路線的破産をインペイし危機を切り切りとして、労働千葉と三里塚破壊を目的化した日共との野合を選択したのだ。「本部」反動分子の日共との野合の狙いはこれ以外のなにものでもなく、「左に開かれた部分」などとはおよそ無縁の、反動の連合である。それは今秋三里塚二期決戦から、来年三月ジェット燃料暫定輸送期限延長阻止闘争の全人民的高揚を恐れ予防革命的に抑えこもうとする反動的攻撃である。

しかも七九年一〇月二二日・十一月一日増送阻止闘争に対し「ストライキ反対」を公然と掲げて暴力的にスト破りを画策した「本部」反動分子。こんにち「三里塚は反人民的」「三里塚はスパイの運動」といいたす「本部」反動分子が、いかなる立場で三里塚・ジェット闘争を闘うというのだ。われわれは、こうした闘いポーズをもってその実、三里塚・労働千葉破壊攻撃のみに、自らの破産の延命を策す「本部」反動分子を徹底的に弾劾し、反合・三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう。

「貨物安定輸送宣言」と「反対同盟と一線を画す」なる三里塚敵対・労働千葉破壊を策動しこれが破産するや、日共との野合をもって再び反動的策動を開始しようとしているのだ。

全組強固な家族の強固な組織破壊攻撃を粉碎せよノ